

OCTとレーザースペックルを用いた眼科診療

緑内障と黄斑疾患

座長のことば

近年急速な普及がみられるOCTは年々進化し、既に眼科診療においてはなくてはならないものです。また、眼底血流を計測することが可能なレーザースペックルフローグラフィ(LSFG)の臨床使用が広まりつつあります。今回のセミナーは、最新のOCTと眼底血流計測により、どのような眼科診療が可能になるかということを中心に、緑内障と黄斑疾患の症例を検討するという企画をしました。まず、大久保先生にはOCTを用いた緑内障の早期発見、経過観察について、次に、鈴間先生にはLSFGを用いた黄斑疾患の診断を中心にご講演いただきます。

急速な進歩をとげている眼科診療に、新たな変化をもたらす可能性のある今回のセミナーに、多くの先生方がご参加されるようお待ちしております。



座長

Kazuhisa Sugiyama

杉山 和久先生

金沢大学眼科 教授

演者



Shinji Ohkubo

OCTを用いた 緑内障早期発見と経過観察

大久保 真司先生

金沢大学附属病院 病院臨床准教授

LSFGで見る 網膜血管障害

鈴間 潔先生

京都大学大学院医学研究科眼科学 准教授



演者

Kiyoshi Suzuma